

苦しさは誰も変わってくれない

私は高校時代、自分が壁にぶつかるたびに

「どうしたらこの壁を乗り越えられるか」

「どうやって失敗を克服したらいいのか」

ということを考えながら、バスケットに取り組んできた（小・中学は水泳部）。

そんな時、いつも支えになったのが、父親から教えられた次の言葉だった。

**「苦しいとか・辛いとか・悲しいとかは、誰も変わってくれない。
だから、自分自身で全部“いただきます”と受け止めなければならない」**

すべてを受け止めたうえで、どうやって壁を乗り越えていくか。それは、高い志を持ち、目標設定をするということだということを教えられた。

今の高校生を見ると、失敗をしたり壁を乗り越えられないと、他人の責任・学校の責任・社会の責任にしようとする姿ばかりが目につく。しかし、自分に矢印を向けることもせずに、言い訳ばかりをしていたところで、次の一步を踏み出すことは出来ないだろう。新たな活力を生み出すためには、矢印を自分に向けること以外に方法はない。自分に矢印を向け、その結果を受け止める勇気を持つことから始まるものなのだ。

親として・・・（私も3人の父親です）

いくら親に財産があろうが、地位や名声があろうが、子供達は自分の足で歩んでいかなければなりません。親が代わりに子供の人生を歩むことなどできません。苦しいことがあろうが、辛いことがあろうが、自分の足でしっかり前進していける強さを身につけさせることが親の務めではないでしょうか？（生意気を言って申し訳ございません）

もちろん、危ないときに手をさしのべてやることは必要です。もう一歩がどうしても踏み出せないときに、「さあ！行きなさい・頑張きなさい」と勇気の後押しをしてやることも大切だと思います。

「笑顔を絶やさず、もう一歩前進」

「苦しさには負けないで、もう一歩前進」